

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月22日

協議会名: 中頓別町・浜頓別町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
中頓別町・浜頓別町地域公 共交通活性化協議会	中頓別町浜頓別町デマンドバ ス事業 運行系統名: 中頓別浜頓別線 運行区間: 浜頓別～中頓別～ 音威子府 運行回数: 3回/日 運賃: 浜頓別～中頓別 500円 中頓別～音威子府 1,000円 浜頓別～音威子府 1,500円	電話予約の対応を行うコール センターについて、予約に関す る細かい内容に対応できる事 業者に切り替えたことでコール バックの手間の削減、利用者 の利便性向上が図られた。 また、小学生および未就学児 の運賃について、他の公共交 通に合わせて小学生を半額、 未就学児を無料とするよう改正 し利用促進が図られた。	A	事業が計画に位置付けられ たとおり適正に実施された。	B 利用者数(補助事業年度) 目標値: 1,400人/年以上 実績値: 2,544人/年 公共交通への公的資金投 入額 (補助事業年度) 目標値: 15.0百万円/年以 内 実績値: 15.55百万円/年 ※昨年度と比較して、人件 費単価の上昇に伴い実績 額も増加している。	利用者数に関しては、過去2年 の実績をもとに適切な目標値を 設定していく。 公的資金投入額に関しては、 効率的な運行および車両回し 等に取り組むとともに、人件費 の上昇によるものであることから 目標値の再設定も含めて検 討する。 当該系統に接続するJRや都市 間バスに遅延が発生した際、 予約者に対して電話により連絡 しているが、予約者が車内から 通話することに抵抗があるとの 意見がある。今後、オンライン 予約システムでのチャット等の 機能を検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月22日

協議会名：	中頓別町・浜頓別町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	中頓別町及び浜頓別町は、北海道の北部、宗谷地方に位置しており、面積はそれぞれ398.51km²、401.59km²である。人口(令和7年12月1日住基台帳)はそれぞれ1,433人、3,174人となっている。 両町の間は約20kmあり、最寄りのJR駅は中頓別町から約38kmの距離にある音威子府村である。また、中核市であり通院等の生活圏である稚内市及び名寄市までは、各町から80kmから100km程度の距離にある。 これら生活圏内の移動として、主に音威子府駅までのフィーダー路線である中頓別浜頓別線を運行している。本系統は車を持たない方や高齢者の買い物や通院、通勤に利用されており、地域の足として重要な役割を担っている。 人口減少が進み、人口低密度地域である当該地域において、最適な公共交通の在り方を検討し、複数の交通手段を組み合わせることで住民や来訪者の足を確保していく必要がある。そのためにも本系統は基幹となる交通手段として維持改善を図っていくことが重要である。

中頓別町・浜頓別町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

中頓別町及び浜頓別町の生活圏内の移動として、主に音威子府駅までのフィーダー路線である中頓別浜頓別線を運行している。本系統は車を持たない方や高齢者の買い物や通院、通勤に利用されており、地域の足として重要な役割を担っている。

人口減少が進み、人口低密度地域である当該地域において、最適な公共交通の在り方を検討し、複数の交通手段を組み合わせることで住民や来訪者の足を確保していく必要がある。そのためにも本系統は基幹となる交通手段として維持改善を図っていくことが重要である。

地域公共交通の現況

- ・地域内フィーダー系統：中頓別浜頓別線
- ・JR宗谷本線（音威子府駅）
- ・宗谷バス（株）（浜頓別線、えさし号、天北号）
- ・スクールバス（町営スクールバス）
- ・タクシー（両町1社ずつ）

生活交通確保維持改善計画の目標

中頓別浜頓別線の運行に対して次の目標を定める。
利用者数：1,400人/年以上とする。
公共交通への公的資金投入額：15.0百万円/年以内とする。

協議会開催状況

- 令和7年5月21日 第1回協議会を開催
- ・事業報告、事業計画
 - ・中頓別町・浜頓別町地域公共交通計画の変更 ほか

- 令和7年12月22日 第2回協議会を開催
- ・事業評価に関する協議 ほか

令和7年度事業概要

中頓別町浜頓別町デマンドバス事業

運行系統名：中頓別浜頓別線

運行区間：浜頓別～中頓別～音威子府

運行回数：3回/日

運賃：浜頓別～中頓別 500円、中頓別～音威子府 1,000円、浜頓別～音威子府 1,500円

令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

【プロセス】

・令和5年9月末をもって路線バス天北宗谷岬線の路線再編に伴い、令和5年8月から9月末までの実証運行を経て、令和5年10月からの本格運行となった。

【創意工夫】

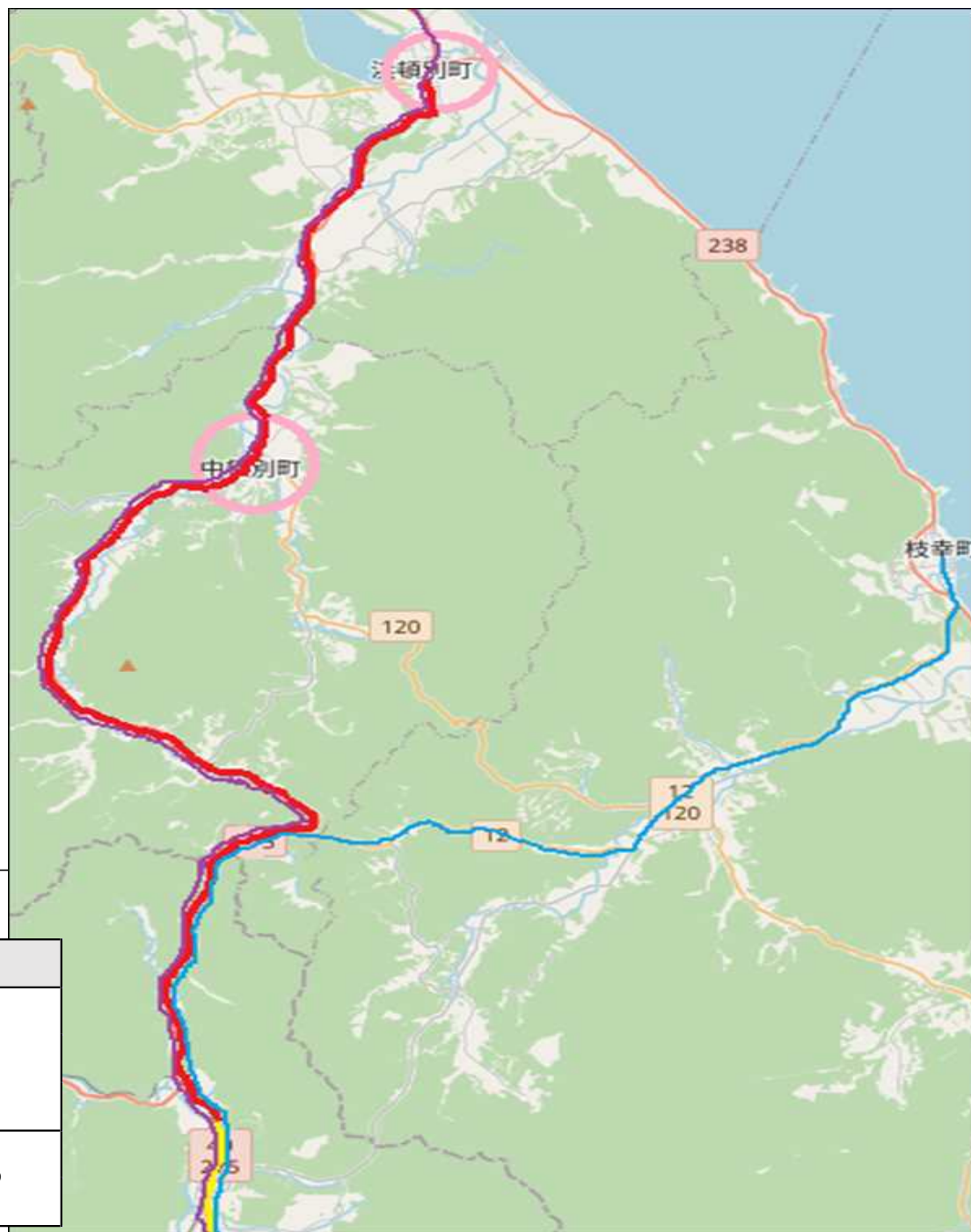
・電話予約の対応を行うコールセンターについて、予約に関する細かい内容に対応できる事業者に切り替えたことでコールバックの手間の削減、利用者の利便性向上が図られた。

・小学生および未就学児の運賃について、他の公共交通に合わせて小学生を半額、未就学児を無料とするよう改正し利用促進が図られた。

2) 運行系統

中頓別浜頓別線

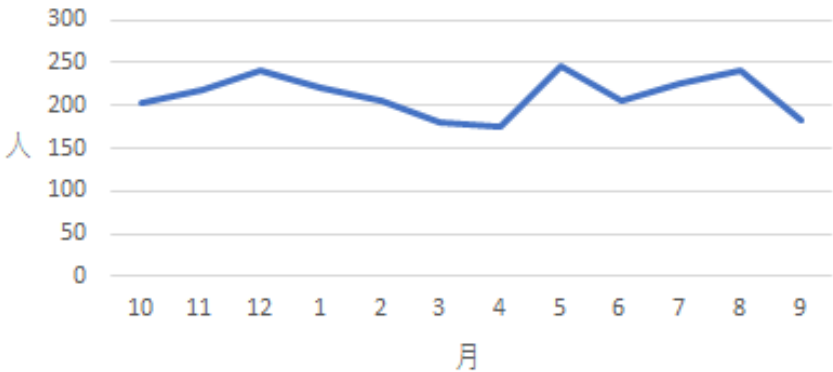
位置付け	系統	役割
広域幹線	鉄道路線	各拠点と都市部を結ぶ広域交通を担う
	都市間バス	
	都市間バス	
支線	タクシー	区域内各地域を運行し、軸となる幹線への接続も担う
	デマンドバス	



3) 利用実績

便ごとの乗車人数（人）

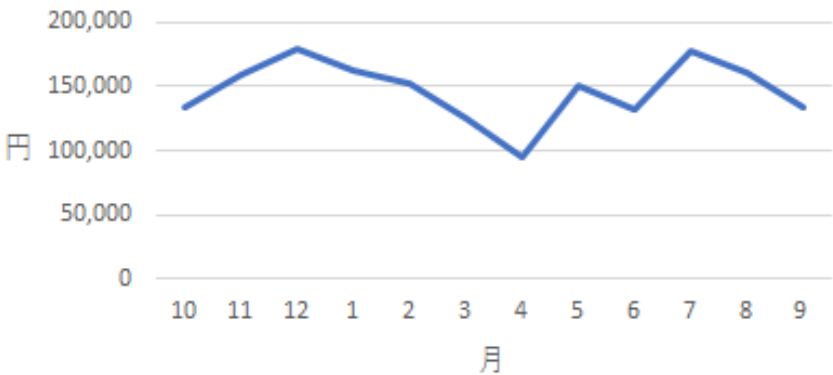
	1便 (下り)	2便 (下り)	3便 (下り)	浜-音 (上り)	計
令和6年10月	50	0	125	28	203
11月	48	5	124	40	217
12月	62	1	132	45	240
令和7年1月	29	3	147	42	221
2月	33	3	137	32	205
3月	32	2	113	34	181
4月	18	8	127	23	176
5月	55	1	147	44	247
6月	43	4	114	44	205
7月	53	2	121	49	225
8月	53	3	147	38	241
9月	39	5	102	37	183
計	515	37	1,536	456	2,544



4) 収入実績

運賃収入（円）

	金額
令和6年10月	134,400
11月	158,800
12月	179,100
令和7年1月	162,800
2月	151,400
3月	124,900
4月	94,800
5月	151,000
6月	131,900
7月	176,500
8月	160,800
9月	133,900
計	1,760,300



5)事業実施の適切性

事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。

6)目標・効果達成状況

利用者数(補助事業年度)

目標値:1,400人/年以上

実績値:2,544人/年

公的資金投入額(補助事業年度)

目標値:15.0百万円/年以内

実績値:15.55百万円/年

※昨年度と比較して、人件費単価の上昇に伴い実績額も増加している。

7)事業の今後の改善点

利用者数に関しては、過去2年の実績をもとに適切な目標値を設定していく。

公的資金投入額に関しては、効率的な運行および車両回し等に取り組むとともに、人件費の上昇によるものであることから目標値の再設定も含めて検討する。

当該系統に接続するJRや都市間バスに遅延が発生した際、予約者に対して電話により連絡しているが、予約者が車内から通話することに抵抗があるとの意見がある。今後、オンライン予約システムでのチャット等の機能を検討する。

8)地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄